

ファナック株式会社 2026 年度 第 1 四半期決算説明会(電話会議) 質疑応答要旨 (2026 年 7 月 31 日開催)

Q. FA 受注が大きく増加していますが、需要の継続性と受注・売上ギャップの要因を教えてください。

A. FA 受注は 2025 年度 4Q から大きく増加しており、中国市場ではデータセンタ、AI データサーバ向け半導体、3C（Computer、Communication、Consumer Electronics）関連、NEV（New Energy Vehicle）、人型ロボットの機械加工部品などが需要を牽引しています。インドでは自動車・二輪車やインフラ関係、台湾では半導体やデータサーバ関連を中心に受注が大きく回復しています。韓国でも伸びています。

受注と売上のギャップの要因としては、一部部品の納期が長期化していることが挙げられます。当社商品の納期が長くなるとお客様が先行してオーダーを入れることがあります。従いまして、1Q の受注高水準が今後もそのまま続くかまでは見通せていません。当社としては部品調達に注力し、納期正常化に向けて全力で取り組んでいます。

Q. 部品調達環境と受注シェアへの影響について教えてください。

A. 調達環境については個社要因というより、世界的に設備投資が盛んになっていることを背景とし、業界全般的にタイトになっていると認識しています。半導体や電気電子部品だけでなく、機械部品を含め幅広い部材で納期長期化が見られます。代替品やセカンドソース・サードソースの活用も含め、全社の総力を挙げて対応しています。

中国市場では、非常に旺盛な注文に対して当社からの供給納期が長くなっていることは事実であり、市場の一部で他社製品の採用が見られることは認識しています。一方で、用途や顧客層により競争軸が大きく異なるため、それをもって当社シェアが低下していると単純に見るのは適切ではないと考えています。当社は引き続き、品質、信頼性、サービス、あるいは当社ならではの自動化提案などを評価いただける領域で、お客様との関係を更に強化し、中長期的に事業を伸ばしていく考えです。

Q. フィジカル AI の進捗と事業機会について教えてください。

A. フィジカル AI は非常に関心が高い領域であり、多くのお客様から引き合いをいただいています。例えば、新商品発表展示会で展示した、個々のワークを教示しなくても、大まかな指示に基づき形状や姿勢の異なる対象物を取り扱えるアプリケーション等の技術についても高い評価をいただきました。実際の実装はまだトライアル段階が多いものの、今後具体的な注文につながるケースは増えていくと考えています。本格的な需要拡大はこれから出てくると見えています。

Q. 通期業績予想について、売上増に比べて利益の増加が限定的である理由を教えてください。

A. 今回の業績予想では、売上は FA、ロボット、ロボマシンのいずれか特定の事業ではなく、全般的に伸びる想定で策定しています。

一方、利益については部品の値上がりが継続していること、価格への反映には一定の時間差や不確定要素があることに加え、米国関税の影響なども現時点で分かる範囲で織り込んでいます。販売価格への転嫁は、商品の価値や需給環境、お客様との関係、競争環境などを踏まえて判断しており、コストダウンや生産性改善を組み合わせながら、お客様の成長と当社の収益性を両立させる形で進めます。

Q. 今後の設備投資と生産能力について教えてください。

A. 当社の生産能力には現時点でまだ余裕がありますが、FAについては想定以上に需要が増加しているため、次の段階に向けた投資をそろそろ進める時期ではないかと考えています。このことも、今期の設備投資が前期より増加する背景の一つとなっております。

ロボットについては、過去の納期長期化を踏まえて生産能力の増強を積極的に進めてきたため、現時点では余裕があります。当面は既存建屋への設備導入で対応可能と考えていますが、フィジカル AI の実装拡大によって需要が想定以上に拡大する場合には、すでに確保している用地を活用した建屋建設も選択肢になってくると考えています。

Q. フィジカル AI の普及を踏まえた中長期的な収益性向上の可能性について教えてください。

A. フィジカル AI の進展に伴いロボット需要の拡大を期待しており、当社としては基本的に産業のオートメーション分野という、得意領域に絞って競争力を発揮し、利益を伸ばしていく考えです。

フィジカル AI を活用したモジュールや共通アプリケーションなど、標準化されたソフトウェアパッケージを提供することにより、SIer 様と Win-Win の関係を維持しながら収益性向上につなげられる可能性があると考えています。オープンプラットフォーム対応により当社自身だけでなくさまざまな方と協業する仕組みを提唱しており、戦略的に対応していきます。

以上

本資料に含まれている将来に関する見通しには、市場における製品の需給動向、競合状況、経済情勢その他に不透明な面があり、実際と異なる可能性があることをご承知おき願います。